

みぶの花田うえ

ひろ子の町には「みぶの花田うえ」というおまつりが、六月のさいしよの日よう日にあります。きれいなかざりをつけたうしが出てきたり、きものをきた人たちが、たいこにあわせて田うえをしたりするおまつりです。ひろ子はまい年、かぞくみんなで出かける、このおまつりが大すきです。

おまつりには金ぎよすくいや、わたがしのおみせも出ています。ひろ子は、わくわくしてたまりません。かぞくといっしょに田んぼのちかくまで行って、花田うえを見ようと思いました。すると、おなじクラスのもだちがやってきて

「ひろ子ちゃん、おみせを見てまわろうよ！」

といいました。ともだちと手をつないだひろ子は、はしって、おみせにいきました。そこには、ともだちがなん人もいて、ひろ子はむちゅうでおみせを見てまわりました。

田んぼのほうを見ると、えいごをおしえてくれているトーマス先生がいました。ひろ子は、みんなとはなれてトーマス先生のほうにはしっていきました。先生は、一ばんまえて花田うえを見ていました。

「こんにちは、トーマス先生。先生はおみせにいかないの？」

「ぼくは、なにかわらないよ。このおまつりを見に来たんだよ。」

「えっ。それだけ？」

トーマス先生は、にこにこしながらはなしてくれました。

「そうさ。ぼくは、花田うえを見るのがずっとたのしみだったんだ。」

「どうしてそんなにたのしみなの？」

「それはね、このおまつりには、すごいひみつがあるからさ。」

「どういうこと？」

「このみぶの花田うえを見るとね、日本の人たちが、むかしからおめをみんなでここをあわせてつくってきたことがわかるんだよ。」

「へえ。そんなにすごいのか？」

トーマス先生は、手をひろげながら大きなこえでたのしそうにはなしてくれました。

「いいかい。みぶの花田うえはね、ずっとのこしておきたいせかいのたからの一つにもえらばれていて、アメリカにいたときから見えたかったんだ。それがひろ子ちゃんのすんでいるこのきたひろしま町にあるんだよ。それを九百年もむかしから、町の人たちでおしえあって、やってきているそうだよ。」

「九百年も！」

「そうだよ、この町の人は、九百年もまえから、田うえのしごとがおわりになるのをおいわいして、みんなで力をあわせて、この一年に一かいのおまつりをずつつづけてきたんだよ。」

ひろ子は目をまるくしました。そして、田んぼのほうにかおをむけました。

いろとりどりのきれいなかざりをつけたうしが、なんともいます。ゆつくりと田んぼの中をあるいて田うえができるじゅんびをしています。すると、男の人が、あいずを出しながらうたをうたい出しました。かさをかぶった女の人たちは、それにあわせていっせいにうたをうたいます。そして、みんなでなえをどんどんとうえていきます。白いふさふさのついたバチをもった男の人はくるとバチをまわし、たいこをたたいておどっています。たくさんの人がやっているのにうごきがぴたりとそろっているのです。なえをうえている女の人も、たいこをたたく男の人たちもみんないっしょうけんめいで、中には、あせをかいている人もいました。

気がつくときひろ子は花田うえをむちゅうで見っていました。はつとしてまわりを見ると、おきやくさんたちもみんなむちゅうで花田うえを見えています。カメラでしゃしんをとっている人たちもいます。トーマス先生は、ふえの音にあわせてからだをゆらしています。みぶの花田うえを見ているたくさんの人たちは、どの人もみんなうれしそうです。ひろ子にはっこりしました。

田んぼいっぱいになえがうえられ、おまつりがおわりました。気がつくと、ひろ子は、立ち上がってだれにもまけない大きなはく手をしていました。そして「あした、学校にいったら、おみせにいて花田うえを見ていなかったともだちに花田うえのことをいっぱいはなしてあげよう。」とおもいました。